

ご町内だけで組閣ができた？

——東京・本駒込六丁目

松濤、広尾、麴町、田園調布……。東京の中心部には、整然とした区画に豪邸が立ち並ぶ屋敷町がいくつもあります。こうしたまちほどは知られていませんが、文京区本駒込六丁目付近の「大和郷^{やまとむら}」もその一つ。いや、歴史と由緒の点では都内屈指と言えるかもしれません。

左のスケッチは、国の特別名勝「六義園」。徳川綱吉の側用人、柳沢吉保が執念を傾けて造営した回遊式庭園です。明治維新後、三菱財閥の総帥岩崎弥太郎がこの六義園と周辺の土地を合わせて買い取り、大正時代になって庭園に隣接する一帯が宅地分譲されたのです。現在では、桜の季節はライトアップされた一本桜、秋になれば池に映る中秋の名月目当てにおおぜいの来園者が押しかけます。

まちを歩いてみると、一部マンションがあるものの、大半は高い塀に囲まれた豪邸のオンパレード。当初の住人は多くが政財界の要人で、ひところは町内で組閣ができるんじゃないのというほどであったとか。

ちなみに大和郷の名は、大和郡山への転封後も柳沢家が下屋敷として使ったことに由来します。ただし最初は「大和村」。東京都から、区の中に村があるようで不都合との指摘で郷に変更されてしまいました。



豪邸がずらりと立ち並ぶ大和郷



歴史にもしが許されれば小足利が全国に

—— 栃木・足利 鏝阿寺かいわい

時の支配者がまちづくりの手にしたか、はたまた観光客誘致のため後世の人がアピールしたかはわかりませんが、小京都と呼ばれるまちが全国に数多く存在して
ます。角館、松江、萩、津和野といったまちがそれ。源氏の血筋を引く足利氏のま
ち、足利も小京都の一つに数えられます。

JR両毛線の足利駅から北西へ歩くこと約15分。スケッチした石畳の参道奥へ向
かうと、周囲になぜか土塁と堀を巡らせた鏝阿寺ぼんあじがあります。緑の濃い約4万㎡の
境内には、国宝に指定された本堂のほか、多宝塔や山門などの文化財が目白押し。
実はここ、元々は足利氏代々の居館で、土塁と堀は防御のために築かれたとか。

お隣りは、茅葺の大屋根が目を引く史跡足利学校。戦国時代は3000人ももの学
生を擁する日本最大の大学でした。また、足利氏ゆかりの寺も市内に多く、なるほ
ど小京都と呼びたくなる風情のまちです。

しかし、京の都に室町幕府を開いた征夷大將軍はかの足利尊氏。足利のまちを治
めた初代に繋がる嫡流です。もし仮に足利政権がもつと続いていたとしたならば、
小京都ならぬ「小足利」が全国に広まったかもしれませぬ。ついでに、八つ橋や阿
闍梨餅じゃなく、足利銘菓「古印最中」が全国区になつていたかも。



鏝阿寺の参道「大日大門通り」には
民芸の店や和風カフェが点在する

